

◆コンドームを使わなかった理由(表 31)

一番最近のセックスの時にコンドームを使用しなかった理由を尋ねた。男女とも「手元になかった」という環境因子が第1位であった。2位、3位は男子では「気持ちよくない」(快楽優先)、「膣外射精(外だし)したから」(他の“避妊法”の実施)、女子では「膣外射精(外だし)したから」「いつも使わないから」(無防備行動の習慣化)が上位であった。「気持ちよくない」の男女差は、統計学的に有意であった ( $p < 0.001$ )。

表31. コンドームを使わなかった理由(複数回答)

	男子	%	女子	%
手元になかった	68	55.3	131	52.8
安全日だった	15	12.2	20	8.1
外だしした	50	40.7	124	50.0
雰囲気壊す	13	10.6	23	9.3
気持ちよくない	58	47.2	48	19.4
相手が嫌がる	13	10.6	38	15.3
痛い	4	3.3	26	10.5
使っても完全には予防できない	4	3.3	3	1.2
お酒を飲んでた	4	3.3	11	4.4
お金がなかった	7	5.7	4	1.6
相手を信じている	10	8.1	37	14.9
いつも使わない	28	22.8	69	27.8
その他	4	3.3	20	8.1
	n=123		n=248	

◆過去3ヶ月間のコンドーム購入状況(表 32)

過去3ヶ月間のコンドーム購入経験を表32に示す。セックス経験者のうち、男子の約5割と女子の2割が過去3ヶ月間にコンドームを購入しており、コンドームを購入するのは圧倒的に男性に偏っていた ( $p < 0.001$ )。コンドーム購入率を昨年度と比較すると、男子は48.7%から47.6%とほぼ同じであったが、女子は18.3%から22.3%と少しであるが上昇傾向が観察された ( $p = 0.07$ )。

表 32. 過去3ヶ月のコンドーム購入経験

	2003年				2002年			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
買った	162	47.6	148	22.3	249	48.7	143	18.3
買わなかった	175	51.5	502	75.6	240	47	617	79.1
不明	3	0.9	14	2.1	22	4.3	20	2.6
合計	340	100	664	100	511	100	780	100

◆コンドーム使用トラブル(表 33)

セックス経験者にコンドームの使用トラブルを尋ねた。「うまくつけられなかった」「途中ではずれた」「破けた」「窮屈ではずした」が約1~2割も存在し、我々が1999年に実施した全国国民性行動調査におけるコンドーム使用トラブル発生率も若い年代ほど高率であったことから若者に対するコンドーム教育の必要性が示された。

表 33. コンドーム使用トラブル(複数回答)

	男	%	女	%
コンドームをうまくつけられなかった	104	18.6	168	17.7
コンドームが途中ではずれた	67	12.0	158	16.7
コンドームが破けた	85	15.2	112	11.8
コンドームが窮屈で途中ではずした	74	13.2	124	13.1
	n=559		n=947	

◆セックスの相手の数とコンドーム使用率との関係（表 34）（表 35）

これまでのセックスの相手の累積数と「過去 3 ヶ月間のコンドーム使用率」との関係（表 34）および「一番最近のセックス時のコンドーム使用率」との関係（表 35）に示した。「過去 3 ヶ月間のコンドーム使用率」「一番最近のセックス時のコンドーム使用率」のどちらにおいても、相手の数が多くなるほど、コンドーム使用率は低くなり、相手の数とコンドーム使用率との間には逆相関関係が示された（表 34、35 の男女とも  $p < 0.001$ ）。この結果は、昨年度および他地域高校生、他の若者集団（大学生、首都圏カップル）にすべてに共通する現象であった。

表 34. これまでの相手の数と過去 3 ヶ月コンドーム毎回使用との関係

	毎回使用者（過去 3 ヶ月）					
	男子	%	女子	%	男女	%
これまでの相手の総数						
1 人	68	52.3	129	50.8	197	51.3
2 人	33	44.6	43	33.1	76	37.3
3 人	10	30.3	25	28.4	35	28.9
4 人以上	21	23.1	33	19.5	54	20.8

表 35. これまでの相手の数と一番最近のコンドーム使用との関係

	毎回使用者（過去 3 ヶ月）					
	男子	%	女子	%	男女	%
これまでの相手の総数						
1 人	100	76.9	178	70.1	278	72.4
2 人	45	60.8	86	66.2	131	64.2
3 人	24	72.7	50	56.8	74	61.2
4 人以上	45	49.5	82	48.5	127	48.8

## (8) リスク認知、予防意識・性規範・予防教育

### ◆性の問題に対するリスク認知(表 36)

性経験者に「予定外の妊娠の可能性」「一般の性感染症にかかる可能性」「HIV に感染する可能性」を尋ねた(表 36)。まず、「予定外の妊娠の可能性」では最も多かったのが男子では“③ありそうだと思う” 30.4%で、女子でも“③ありそうだと思う” 29.6%とほぼ同じ割合であった。「一般の性感染症に感染する可能性」では、男女とも“あまりないと思う”が最も多く、男子 29.5%、女子 32.5%で、「HIV に感染する可能性」では、最も多かったのは、男女とも“②あまりないと思う” 男子 29.0%、女子 34.6%であった。次に“まったくないと思う”=1点、“あまりないと思う”=2点、“ありそうだと思う”=3点、“かなりあると思う”=4点としてリスク認知をスコア化すると、「予定外の妊娠」では、男子 1.6、女子 1.9 と女子の方がリスク認知が高く、「一般の性感染症」でも、男子 1.6、女子 1.7 と少しであるが女子の方が高い傾向があった。「HIV 感染」は男女とも 1.4 であった。「予定外の妊娠」「一般の性感染症」「HIV 感染」という 3つのリスクの中では、男女とも妊娠、性感染症、HIV の順にリスク認知が低下した ( $p<0.001$ )。男女間のリスク認知の差については、HIV のみで有意差があった ( $p=0.03$ )。

### ◆セックスを拒否する自信(表 37)

表 36. リスクの認知(2003 年)

	予定外に妊娠の可能性				STD 感染の可能性				HIV 感染の可能性			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
まったくないと思う	129	23.1	178	18.8	129	23.1	159	16.8	159	28.4	241	25.4
あまりないと思う	135	24.2	285	30.1	165	29.5	308	32.5	162	29.0	328	34.6
ありそうだと思う	170	30.4	280	29.6	113	20.2	221	23.3	83	14.8	110	11.6
かなりあると思う	28	5.01	51	5.4	18	3.22	36	3.8	12	2.15	13	1.4
わからない	97	17.4	150	15.8	134	24	220	23.2	143	25.6	252	26.6
不明	0	0	3	0.3	0	0	3	0.32	0	0	3	0.3
合計	559	100	947	100	559	100	947	100	559	100	947	100

性経験の有無に関わらず高 2 男女全員に、交際相手からセックスを求められたときの態度を尋ねた(未経験者には仮定として)。男子では、「嫌ではないので断らない」が約半数を占め、女子で最も多かったのが「嫌だと言える」25.9%、次が「嫌だと言えるかもしれない」24.2%と絶対的ではないが、ある程度拒否する自信を持っていた。また、女子では「嫌ではないので断らない」は 14.8%で、全体に男女間に大きな違いが認められた ( $p<0.001$ )。

表 37.セックスを拒否する自信

	男子	%	女子	%
いやだけれども絶対言えない	79	3.5	66	2.35
いやだと言えるかもしれない	243	10.7	680	24.2
いやだと言える	188	8.2	726	25.9
いやだと絶対言える	64	2.8	374	13.3
いやではないのでことわらない	1013	44.7	415	14.8
わからない	644	28.4	517	18.4
合計	2268	100	2806	100

◆コンドーム使用を促す自信(表 38)

性経験の有無にかかわらず全員に、セックスの場面で相手にコンドーム使用を促せる自信があるかを尋ねた。男女とも「言える」が最も多く、男子の 30.0%、女子の 32.1%と約 3 割を占め、「絶対言える」と合わせると、男子の約半数、女子の 6 割は自信を持ってコンドームの使用を促せるとの回答であった (男女差  $p<0.001$ )。

表 38. コンドーム交渉の自信(2003 年)

	男子	%	女子	%
絶対に言えない	94	4.1	113	4.0
言えるかもしれない	314	13.8	516	18.4
言える	680	30.0	901	32.1
絶対に言える	400	17.6	868	30.9
「コンドームつけよう」と思わないので言わない	69	3.0	43	1.5
だまってつける	263	11.6	18	0.6
わからない	413	18.2	319	11.4
合計	2268		2806	100

◆コンドームに対する態度(表 39)

「コンドームを使用する男性は相手を大切にしていると思う」に同意する男子は 63.2%であるのに対し、女子では 80.2%とコンドームを使用する男性に対する捉え方に男女で約 2 割もの差が見られた ( $p<0.001$ )。「コンドームを使いたいと思う女性は健康管理ができていると思う」「大切な相手とコンドームを使いたいと思う」では約 6~7 割が同意したが、ここでも女子の割合が高かった ( $p<0.001$ )。「コンドームを持ち歩くのは遊びなれた人だと思われる」では男女とも約 3 割が同意していた。

表 39. コンドームに対する態度

	男(n=2268)				女(n=2806)			
	そう思う		そう思わない		そう思う		そう思わない	
	n	%	n	%	n	%	n	%
コンドーム使用男は相手を大切にする?	1434	63.2	247	10.9	2251	80.2	180	6.4
コンドーム使いたい女は健康管理ができる?	1411	62.2	228	10.1	1954	69.6	241	8.6
コンドームの失敗率が高いので使っていない	61	2.7	1636	72.1	54	1.9	2095	74.7
コンドームを持つてる人は遊んでる人と思うか?	725	32.0	917	40.4	911	32.5	1217	43.4
大切な相手とコンドームを使いたいと思うか?	1420	62.6	234	10.3	1935	69.0	195	6.9

◆性規範

①高校生のセックス容認度(表 40)

高校生がセックスをすることを認めている人の割合を表 40 に示した。「構わないと思う」「どちらかと言えばかまわないと思う」を合わせると、男子の 74.7%、女子の 72.0% と 7 割以上が高校生の性行為を認めていた。性行為の容認度の年次推移を見ると、2001 年～2003 年の変化は、男子では 83.8%、79.6%、74.7%、と年々 4%ずつ減少し (p<0.001)、女子では 77.7%、78.4%、72.0% と 2001 年と 2002 年は変わらないが、2003 年になると 6%減少し (p<0.001)、男女とも容認度の減少 (=規範意識の強化) が観察された。

表 40. 高校生のセックス受容度

	2003 年				2002 年				2001 年			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
かまわないと思う	1280	56.4	1327	47.3	1926	59.6	1879	54.1	1473	65.2	1357	50.7
どちらかと言えばかまわないと思う	415	18.3	692	24.7	645	20.0	845	24.3	420	18.6	721	27.0
どちらかと言えばよくないと思う	240	10.6	392	14.0	279	8.6	341	9.8	106	4.7	241	9.0
よくないと思う	109	4.8	167	6.0	118	3.7	120	3.5	63	2.8	86	3.2
わからない	209	9.2	214	7.6	233	7.2	271	7.8	179	7.9	239	8.9
不明	15	0.7	14	0.5	31	1.0	15	0.4	19	0.8	31	1.2
合計	2268	100	2806	100	3232	100	3471	100	2260	100	2675	100

②高校生のセックスに対する態度(表 41)

まず「高校生がセックスするのは早い」と考えている高校 2 年生は、男女とも約 1 割程度しか存在しない。「セックスではなく別のつきあい方もある」と思っているのは男子 6 割、女子 7 割 (男女差 p<0.001)、「愛していても簡単にセックスするのはよくない」が男子の半数、女子の 6 割も存在する (男女差 p<0.001) にもかかわらず、「コンドームを使えばかまわない」、「愛しているならかまわない」と男女とも約半数が考え、「交際している人だったらかまわない」も男女とも 4 割が同意していた。

表 41. 高校生のセックスに対する態度

	男 n=2268				女 n=2806			
	そう思う		そう思わない		そう思う		そう思わない	
	n	%	n	%	n	%	n	%
高校生がセックスするのは早い	256	11.3	1551	68.4	341	12.2	1866	66.5
コンドームを使えばかまわない	1060	46.7	607	26.8	1319	47.0	798	28.4
セックスではなく、別のつきあい方もある	1428	63.0	236	10.4	2067	73.7	197	7.0
愛しているからかまわない	1193	52.6	527	23.2	1388	49.5	774	27.6
愛していても簡単にセックスするのはよくない	1109	48.9	567	25.0	1741	62.0	502	17.9
つきあっている人だったらかまわない	915	40.3	760	33.5	1012	36.1	1050	37.4

### ③中学生のセックスに対する態度(表 42)

中学生のセックスを認めている人の割合を表 42 に示した。「かまわない」「どちらかと言えばかまわない」を合わせると、男子 58.4%、女子の 50.5%と約 5 割～6 割が中学生のセックスを認め、男女では男子の方が容認率が高かった(男女差  $p<0.001$ )。昨年度と比較すると、高校生のセックス容認度が減少したのとは異なり、「かまわない」「どちらかと言えばかまわない」の割合は、昨年とほぼ同様の結果が得られていた。

表 42. 中学生のセックス受容度(2003 年)

	2003 年				2002 年			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
かまわないと思う	979	43.2	807	28.8	1200	37.1	932	26.9
どちらかと言えばかまわないと思う	344	15.2	608	21.7	633	19.6	804	23.2
どちらかと言えばよくないと思う	425	18.7	657	23.4	606	18.8	813	23.4
よくないと思う	294	13.0	511	18.2	520	16.1	633	18.2
わからない	213	9.4	209	7.4	238	7.4	271	7.8
不明	13	0.6	14	0.5	35	1.1	18	0.5
合計	2268	100	2806	100	3232	100	3471	100

### ④これまで学校で習った性情報(表 43)

これまでに性に関して学校で習ったことを表 43 に示す。約 9 割の生徒が学校で習った項目は「妊娠・出産」「エイズのこと」で、「妊娠・出産」「避妊法」「人工妊娠中絶」「性病」は約 7～8 割が学校で教えられていた。一方、コンドームの正しい使い方に関する教育は 4 割しか教えられていなかった。この結果を昨年度と比較すると、「人工妊娠中絶」「性病」がどちらも昨年度より約 1 割増加し ( $p<0.001$ )、予防教育の普及が観察された。

表 43. これまでに学校で習ったこと(複数回答)

	2003 年				2002 年			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
性交	1720	75.8	2154	76.8	2295	71.0	2586	74.5
妊娠・出産	1962	86.5	2656	94.7	2820	87.3	3292	94.8
人工妊娠中絶	1489	65.7	2038	72.6	1929	59.7	2215	63.8
避妊法	1619	71.4	2189	78.0	2184	67.6	2759	79.5
性病のこと	1495	65.9	1995	71.1	1905	58.9	2199	63.4
エイズのこと	1899	83.7	2480	88.4	2750	85.1	3040	87.6
エイズや性病の予防方法	1626	71.7	1998	71.2	2178	67.4	2349	67.7
男性用コンドームの正しい使い方	929	41.0	1016	36.2	1316	40.7	1168	33.7
女性用コンドームの正しい使い方	355	15.7	535	19.1	531	16.4	735	21.2
同性愛のこと	280	12.3	325	11.6	478	14.8	441	12.7
その他	21	0.9	3	0.1	34	1.1	7	0.2
	n=2268		n=2806		n=3232		n=3471	

⑤現在、性に関して知りたいこと(表 44)

現在、性に関して知りたいことを表 44 に示す。多かったものから並べると、男子では「性病のこと」26.7%、「性交」25.7%、「エイズや性病の予防方法」25.5%であった。女子では「性病のこと」35.8%、「避妊法」29.7%、「エイズのこと」27.9%であった。一方昨年度は、男子では「性病のこと」26.5%、「エイズや性病の予防方法」25.0%、「エイズのこと」22.3%で、女子では、「性病のこと」33.4%、「エイズや性病の予防方法」28.5%、「避妊法」25.2%の順であり、若干の変化はあるが、昨年同様、男女とも性病やエイズに関する情報を求めていることが示された。

表 44. 現在性に関して知りたいこと

	2003 年				2002 年			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
性交	583	25.7	545	19.4	613	19.0	528	15.2
妊娠・出産	257	11.3	548	19.5	329	10.2	598	17.2
人工妊娠中絶	257	11.3	565	20.1	264	8.2	532	15.3
避妊法	468	20.6	832	29.7	597	18.5	874	25.2
性病のこと	605	26.7	1004	35.8	857	26.5	1160	33.4
エイズのこと	521	23.0	784	27.9	720	22.3	855	24.6
エイズや性病の予防方法	578	25.5	886	31.6	809	25.0	990	28.5
男性用コンドームの正しい使い方	497	21.9	442	15.8	566	17.5	482	13.9
女性用コンドームの正しい使い方	241	10.6	655	23.3	375	11.6	731	21.1
同性愛のこと	169	7.5	405	14.4	216	6.7	466	13.4
その他	106	4.7	83	3.0	177	5.5	100	2.9
	n=2268		n=2806		n=3232		n=3471	

### ⑥予防教育の教え方に関する要望（表 45）

表 45 に性教育/予防教育の際の教え方に対する要望を示した。「危ないことは危ないと教えて欲しい」と考えている人が男女とも約 9 割も存在していた。「堂々と教えて欲しい」「ふざけ半分はよくない」が 6～8 割であった。約 5～7 割の人が「心配な時の具体的な連絡先を教えて欲しい」「身近な話を聞きたい」を望んでいた。半数近くの人が「コンドームの正しい使い方を教えて欲しい」と思っていた。男女別の教育に関しては、女子の側からの予防が強く、女子の半数は男女別の予防教育を望んでいた。これらの結果は昨年度の調査結果とほぼ同様であったが、女子で「男子と女子は別々に教えて」「コンドームの正しい使い方を教えて」「熱心な人の話を聞きたい」「身近な話を聞きたい」の項目が昨年より、大きく増加しており（いずれも  $p < 0.001$ ）、女子で予防教育へのニーズが高まっていることが示唆された。

表 45. 教え方に対する要望

	2003年 (n=2268)				2002年(n=2806)			
	男		女		男		女	
	n	%	n	%	n	%	n	%
堂々と教えて欲しい	1757	77.5	2283	81.4	2539	78.6	2822	81.3
おもしろおかしく本当のこと教えて	894	39.4	900	32.1	1424	44.1	1100	31.7
ふざけ半分な言い方はよくない	1481	65.3	2248	80.1	2048	63.4	2733	78.7
危ないことは危ないと教えて	1939	85.5	2638	94.0	2825	87.4	3241	93.4
男子と女子は別々に教えて	700	30.9	1409	50.2	875	27.1	1439	41.5
コンドームの正しい使い方を教えて	1208	53.3	1669	59.5	1647	51.0	1725	49.7
専門家の話聞きたい	948	41.8	1297	46.2	1346	41.6	1547	44.6
熱心な人の話を聞きたい	799	35.2	1078	38.4	1056	32.7	1034	29.8
身近な話を聞きたい	1195	52.7	1891	67.4	1699	52.6	2175	62.7
心配時の具体的相談先	1331	58.7	2001	71.3	1868	57.8	2407	69.3
何度も繰り返し教えて欲しい	485	21.4	687	24.5	621	19.2	709	20.4
低学年から教えて欲しい	539	23.8	567	20.2	748	23.1	676	19.5



## ◆補足資料 2年間、3年間継続参加校における集計結果

A 県高校生に対する調査は今年で3年目を向かえるため、質問項目によって、2年間あるいは3年間の経年変化を調べたが、参加校の変化による影響を排除するために、3年間あるいは2年間継続参加した学校に限定して、再集計を行なった。その結果、前述の全参加校における集計結果と同じ傾向が確認された。補足資料として、2年間、3年間継続参加校における集計結果を追加する。なお、この資料では、統計学的検定を省略した。

### (1) 3年間継続参加校

3年間継続参加校は、12校(2001年：男子571人、女子1411人)(2002年：男子589人、女子1494人)(2003年：男子613人、女子1301人)であった。

#### 性経験の有無

	2001				2002				2003			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
あり	143	25.0	393	27.9	115	19.5	442	29.6	127	20.7	423	32.5
なし	414	72.5	974	69.0	463	78.6	1017	68.1	480	78.3	854	65.6
不明	14	2.5	44	3.1	11	1.9	35	2.3	6	1.0	24	1.8
合計	571	100	1411	100	589	100	1494	100	613	100	1301	100

#### 初交年齢

	2001				2002				2003			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
12歳未満	2	1.4	3	0.8	5	4.3	6	1.4	2	1.6	4	0.9
13歳	5	3.5	11	2.8	3	2.6	13	2.9	3	2.4	17	4.0
14歳	11	7.7	33	8.4	8	7.0	46	10.4	10	7.9	40	9.5
15歳	27	18.9	96	24.4	44	38.3	147	33.3	46	36.2	155	36.6
16歳	70	49.0	168	42.7	47	40.9	192	43.4	53	41.7	165	39.0
17歳	27	18.9	72	18.3	5	4.3	20	4.5	4	3.1	23	5.4
不明	1	0.7	10	2.5	3	2.6	18	4.1	9	7.1	19	4.5
合計	143	100	393	100	115	100	442	100	127	100	423	100

#### これまでのセックスの相手の総数

	2001				2002				2003			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
1人	71	49.7	160	40.7	65	56.5	189	42.8	72	56.7	203	48.0
2人	27	18.9	84	21.4	25	21.7	74	16.7	21	16.5	79	18.7
3人	19	13.3	58	14.8	11	9.6	53	12.0	15	11.8	45	10.6
4人以上	24	16.8	77	19.6	10	8.7	89	20.1	12	9.4	75	17.7
不明	2	1.4	14	3.6	4	3.5	37	8.4	7	5.5	21	5.0
合計	143	100	393	100	115	100	442	100	127	100	423	100

#### 高校生のセックス受容度

	2001				2002				2003			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
構わない	333	58.3	682	48.3	338	57.4	799	53.5	331	54.0	595	45.7
どちらかといえば構わない	126	22.1	382	27.1	133	22.6	384	25.7	111	18.1	316	24.3
どちらかといえばよくない	34	6.0	134	9.5	56	9.5	161	10.8	69	11.3	196	15.1
よくない	19	3.3	59	4.2	14	2.4	44	2.9	29	4.7	85	6.5
分からない	54	9.5	135	9.6	41	7.0	101	6.8	69	11.3	103	7.9
不明	5	0.9	19	1.3	7	1.2	5	0.3	4	0.7	6	0.5
合計	571	100	1411	100	589	100	1494	100	613	100	1301	100

## (2) 2年間継続参加校

2年間継続参加校は、24校（2002年：男子1378人、女子2550人）（2003年：男子1437人、女子2264人）であった。

### 性経験の有無

	2002				2003			
	男	%	女	%	男	%	女	%
あり	324	23.5	788	30.9	334	23.2	728	32.2
なし	1024	74.3	1691	66.3	1077	74.9	1494	66.0
不明	30	2.2	71	2.8	26	1.8	42	1.9
合計	1378	100	2550	100	1437	100	2264	100

### 初交年齢

	2002				2003			
	男	%	女	%	男	%	女	%
12歳未満	11	3.4	13	1.6	5	1.5	9	1.2
13歳	12	3.7	20	2.5	13	3.9	25	3.4
14歳	34	10.5	84	10.7	44	13.2	79	10.9
15歳	118	36.4	271	34.4	126	37.7	267	36.7
16歳	127	39.2	316	40.1	115	34.4	279	38.3
17歳	14	4.3	49	6.2	12	3.6	39	5.4
不明	8	2.5	35	4.4	19	5.7	30	4.1
合計	324	100	788	100	334	100	728	100

### セックスの相手の数

	2002				2003			
	男	%	女	%	男	%	女	%
1人	153	47.2	321	40.7	155	46.4	329	45.2
2人	68	21.0	151	19.2	71	21.3	145	19.9
3人	39	12.0	96	12.2	29	8.7	90	12.4
4人以上	51	15.7	160	20.3	58	17.4	130	17.9
不明	13	4.0	60	7.6	21	6.3	34	4.7
合計	324	100.0	788	100	334	100	728	100

### 初めてのセックスの時のコンドーム使用状況

	2002				2003			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
使った	188	58.0	434	55.1	223	66.8	481	66.1
使わなかった	127	39.2	311	39.5	101	30.2	228	31.3
わからない	4	1.2	25	3.2	6	1.8	12	1.6
不明	5	1.5	18	2.3	4	1.2	7	1.0
合計	324	100	788	100	334	100	728	100

### 過去3ヶ月間のコンドーム使用状況

	2002				2003			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
一度も使わなかった	40	12.3	108	13.7	27	14.1	70	13.8
使わない方が多かった	30	9.3	106	13.5	20	10.5	77	15.2
半々だった	38	11.7	92	11.7	29	15.2	81	16.0
使う方が多かった	46	14.2	96	12.2	39	20.4	79	15.6
毎回使った	55	17.0	149	18.9	75	39.3	196	38.7
不明	3	0.9	4	0.5	1	0.5	3	0.6
合計	212	100	555	100	191	100	506	100

過去3ヶ月間のコンドーム使用状況

	2002				2003			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
一度も使わなかった	40	12.3	108	13.7	27	14.1	70	13.8
使わない方が多かった	30	9.3	106	13.5	20	10.5	77	15.2
半々だった	38	11.7	92	11.7	29	15.2	81	16.0
使う方が多かった	46	14.2	96	12.2	39	20.4	79	15.6
毎回使った	55	17.0	149	18.9	75	39.3	196	38.7
不明	3	0.9	4	0.5	1	0.5	3	0.6
合計	212	100	555	100	191	100	506	100

一番最近のセックスの時のコンドーム使用状況

	2002				2003			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
使った	121	57.1	286	51.5	120	62.8	324	64.0
使わなかった	77	36.3	256	46.1	65	34.0	172	34.0
わからない	10	4.7	9	1.6	6	3.1	6	1.2
不明	4	1.9	4	0.7	0	0	4	0.8
合計	212	100	555	100	191	100	506	100

コンドーム使用目的(複数回答)

	2002				2003			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
避妊	192	90.6	516	93.0	181	94.8	476	94.1
エイズ予防	61	28.8	111	20.0	61	31.9	120	23.7
性病予防	70	33.0	150	27.0	74	38.7	153	30.2
その他	3	1.4	6	1.1	5	2.6	3	0.2
合計	212		555		191		506	

過去3ヶ月のコンドーム購入経験

	2002				2003			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
買った	102	48.1	106	19.1	92	48.2	112	22.1
買わなかった	103	48.6	437	78.7	98	51.3	381	75.3
不明	7	3.3	12	2.2	1	0.5	13	2.6
合計	212	100	555	100	191	100	506	100

中学生のセックス受容度

	2002				2003			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
かまわないと思う	508	36.9	664	26.0	571	39.7	641	28.3
どちらかと言えばかまわないと思	272	19.7	594	23.3	223	15.5	489	21.6
どちらかと言えばよくないと思う	260	18.9	607	23.8	284	19.8	538	23.8
よくないと思う	214	15.5	460	18.0	205	14.3	414	18.3
わからない	104	7.5	211	8.3	147	10.2	173	7.6
不明	20	1.5	14	0.5	7	0.5	9	0.4
合計	1378	100	2550	100	1437	100	2264	100

高校生のセックス受容度

	2002				2003			
	男	%	女	%	男	%	女	%
構わない	796	57.8	1375	53.9	772	53.7	1054	46.6
どちらかといえば構わない	292	21.2	614	24.1	265	18.4	560	24.7
どちらかといえばよくない	112	8.1	254	10.0	159	11.1	329	14.5
よくない	47	3.4	85	3.3	80	5.6	137	6.1
分からない	112	8.1	210	8.2	151	10.5	174	7.7
不明	19	1.4	12	0.5	10	0.7	10	0.4
合計	1378	100	2550	100	1437	100	2264	100

小学校時代の性メディアへの曝露率

	2002				2003			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
全体	1378		2550		1437		2264	
エッチ漫画	558	40.5	605	23.7	533	37.1	617	27.3
エッチ雑誌	444	32.2	395	15.5	442	30.8	402	17.8
アダルトビデオ	250	18.1	142	5.6	232	16.1	149	6.6
インターネット	15	1.1	0	0.0	14	1.0	6	0.3

これまでに学校で習ったこと(複数回答)

	2002				2003			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
性交	929	67.4	1861	73.0	1042	72.5	1733	76.5
妊娠・出産	1171	85.0	2403	94.2	1204	83.8	2127	93.9
人工妊娠中絶	732	53.1	1550	60.8	846	58.9	1556	68.7
避妊法	915	66.4	1957	76.7	926	64.4	1678	74.1
性病のこと	790	57.3	1628	63.8	988	68.8	1702	75.2
エイズのこと	1167	84.7	2220	87.1	1205	83.9	2042	90.2
エイズや性病の予防方法	931	67.6	1696	66.5	1031	71.7	1628	71.9
男性用コンドームの正しい使い方	544	39.5	794	31.1	603	42.0	838	37.0
女性用コンドームの正しい使い方	223	16.2	491	19.3	219	15.2	441	19.5
同性愛のこと	197	14.3	306	12.0	176	12.2	264	11.7
その他	22	1.6	6	0.2	9	0.6	2	0.1
	1378		2550		1437		2264	

## 高校生の性意識/行動の横断調査結果のまとめ（2003年）

**日常生活：**「家族との日常会話頻度と高校生のセックス容認度」、「家族との日常会話頻度と性経験率」との間に逆相関関係が観察され、家庭の役割が重要である可能性が示唆された。各種経験の中で「出会い系サイト」利用者が男女とも1割以上存在し、通常のコミュニケーション枠を越えたこれらの新しい媒体を通じたネットワーク形成が示唆された。

**セックスのことを知った時期：**小学校時代に既に4～5割の生徒がセックスがどのような行為をすることか知っていた。しかもその情報源は「友達」「マンガ」「テレビドラマ」など不確実な情報が主であった。

**性メディアへの暴露状況：**小学校時代に男女とも既に3～4割の児童が何らかの性メディアに暴露されていた。

**性意識：**高校生がセックスをすることをかまわないと認めている生徒（「かまわない」+「どちらかと言えばかまわない」）は、本人の性経験の有無に関わらず、男女とも約7割に達しており、中学生がセックスすることさえも、半数以上がかまわない（「かまわない」+「どちらかと言えばかまわない」）という意識を持っており、セックスをすることに対するハードルの低さが伺われた。

**交際相手：**交際相手は男子の9割、女子の7割は同じ高校生であったが、女子の場合、大学生や社会人と交際している人が2割以上も存在し、年代を超えた他のネットワークとの連結の可能性が示唆された。

**性行動：**セックス経験率は約3割で、他県とほぼ同程度であり、性経験率に地域差がない可能性が示唆された。また、セックス経験者におけるこれまでの相手の累積数を見ると、これまでの相手の数が1人の人は男女とも半数を切り、4人以上の相手がいた人が男女とも2割存在し、地方高校生においても性のネットワークの広がり可能性が観察された。

**コンドーム使用：**コンドームの毎回使用者は男女とも約4割であった。コンドームを使わない第一の理由は「手元になかったから」であり、次に「気持ちよくないから」「膣外射精したから」「いつも使わないから」などの理由であった。コンドーム使用トラブル（コンドームが途中で外れた）（コンドームが破けた）（コンドームが窮屈ではずした）の経験率が約15%と高率であり、具体的な使用方法に対する教育の必要性が示唆された。また、他の若者集団同様、相手の数が多い人ほどコンドームの使用率が低く、無防備な性行動をとっていることが示された。

**リスク認知：**「予定外の妊娠」>「一般の性感染症罹患」>「HIV感染」順でリスクが認知され、女子の方が危機意識が高かった。

**予防教育への要望：**現在の性経験の有無に関わらず、9割を超える生徒が「危ないことは危ないと教えて欲しい」と望んでいる。その際、性感染症/エイズに関する一般論としての情報提供だけでなく、生徒達が自分達のリスクとして捉えられるような具体的な情報への要望が高いことが示された。

**高校生の性行動・性意識の経年変化のまとめ**  
(介入前の高校2年生のベースラインと比較)

**知識レベル**：エイズ・STD 関連知識全体では微増傾向であったが、A 県の地元固有の中絶に関する疫学知識（通常の学校の教科書には掲載されていない知識）に対する正解率だけが昨年度と比べ、約 2 割も上昇しており、地域全体に対する継続的な予防啓発キャンペーンの効果の可能性が示唆された。

**コンドーム使用**：上記と同じく、コンドーム使用意図、コンドーム使用交渉、初交時のコンドーム使用率、過去 3 ヶ月のコンドーム毎回使用率、一番最近のセックス時のコンドーム使用率の全てにおいて、昨年度よりも上昇していることが観察された（6～8%↑）。

**高校生のセックス容認度**：高校生のセックスを「かまわない」+「どちらかと言えばかまわない」と思っているセックス容認者の割合が、3 年間で減少し（6～10%↓）、性行為に対するハードルが若干高まった。

**性情報源**：昨年度と比較すると、女子で、最初の性情報源として「マンガ」の割合が増加していた。（5%↑）

**性経験率**：3 年間の性経験率を比較すると、男子では 25%で全く変化がないのに対し、女子では 27%、31%、34%年々上昇続けていた。

**初交年齢**：3 年間で、男女とも約 1 歳、初交年齢が低年齢化していた。

**予防教育**：昨年度に比べ、「人工妊娠中絶」「性感染症」に関する教育が増加していた（1 割↑）。予防教育へのニーズでは、「男女別々に教えて」「コンドームの正しい使い方を教えて」「熱心な人の話を聞きたい」「身近な話を聞きたい」の項目が昨年度と比べ女子で大きく増加し、前述のように女子はリスクの高い状況にはあるが、彼女達自身の予防教育へのニーズも高まっていることが示唆された。

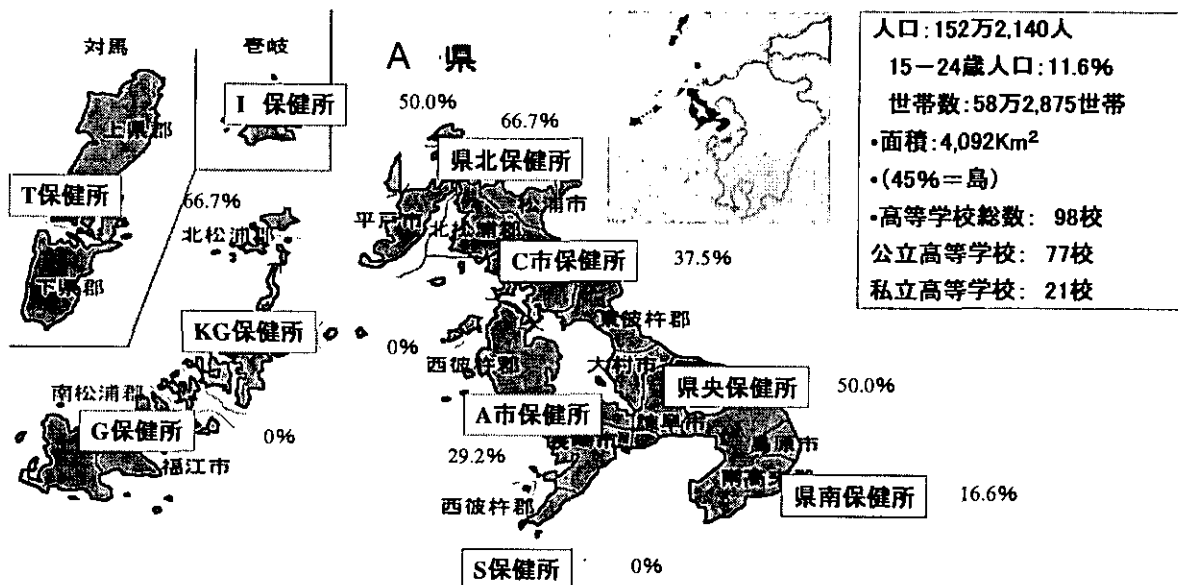
## 1-② 保健所プロジェクト(地域レベル予防介入)

保健所プロジェクト：(WYSHメンバー：前述) + (A県内研究協力者：後述)

片峰 茂 (長崎大学・県エイズ/性感染症専門部会長)  
 楠田 為世子 (県北保健所)                      田崎 さえ子 (県央保健所)  
 光武 幸代/堤 史子 (佐世保市健康づくり課)・  
 菅 清子 (西彼保健所)                              小林 宏蔵 (県南保健所)  
 近藤 梨恵 (五島保健所)                              安野 敦子 (上五島保健所)  
 清水 裕一 (壱岐保健所)                              樋口 敦子 (対馬保健所)  
 渡邊 幸子 (長崎市地域保健課)  
 中倉 幸代/桃野 真基子/松尾 幸子 (佐世保市子育て家庭課)  
 金谷 弘子 (佐世保市PTA連合会母親部)  
 櫻井 英子 (佐世保東翔高等学校PTA)  
 川良 真理 (有) さ・ながさき

**プロジェクト運営組織**:本年度実施した2つのプロジェクトの1つで、A県内の全保健所(10保健所)と研究班との協働で、エイズ性感染症予防啓発事業が展開された。

### 保健所所在地と管内高等学校の調査参加率



**プロジェクトの目的:**A 県のエイズ予防対策の一環として実施される啓発事業における効果的なキャンペーン（ポスター・パンフの貼付配布）の開発評価を行うことを目的とした。

**ポスター/パンフ作成戦略:**A 県のポスター/パンフ作製の際には、下記の3点を考慮した。(1) 明確なメッセージ: 漠然とした抽象的なメッセージを流すのではなく、具体的で明確なメッセージを流す。(2) リスク認知の向上 (自分のこととして捉える: personalization): ①身近な情報 (地方の高校生にとって、エイズよりも、「望まない妊娠」・「クラミジア感染」などより身近なものからリスクを伝える方法を用いる。) ②地域性 (locality) を強調し、自分達の地域の問題であることを印象付ける。③性的ネットワークの概念 (性の問題は一部の人の問題ではなく、誰にでもリスクがあることを理解させる。)

#### **ポスターのデザインの特徴:**

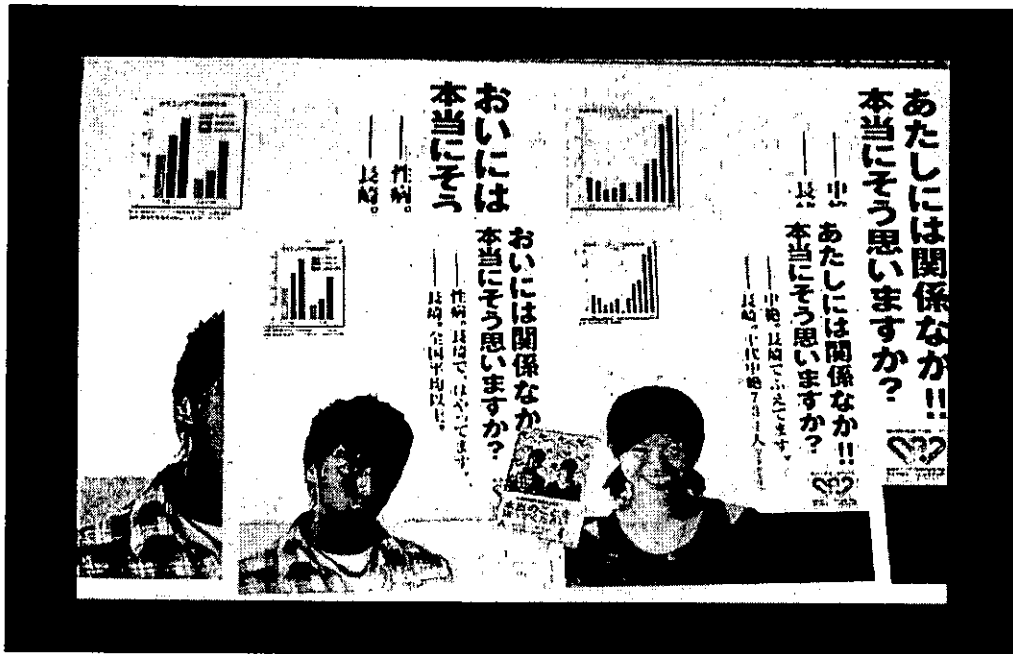
- ① **地域の身近な情報:**ポスターデザインは上図のように、普通の高校生をイメージした明るいものとした (次ページポスター写真参照)。地域性を出すために男女若者が方言でコメントをはさむ形とし、直接エイズ予防を伝えるものではなく、若者がより身近に感じる A 県の中絶率の動向と具体的な数値、A 県の性感染症感染率の高さを訴え、これらのリスクが他人事ではないこと、A 県の若者も気をつけなければならないというメッセージを伝えた。
- ② **小回りのきくサイズ:**ポスターの大きさは A2 版と A3 版の2種類とし、通常のポスターのサイズ (A2 版以上) では、貼付場所が限られたり (貼付許可をとるのも困難となる)、仮に貼ってもらえたとしても短期間ではがされてしまう可能性が高かったため、A3 版の小さいサイズ (頼みやすく、場所に余裕のある場合は数枚連続で貼れるなど flexibility が高くなる) を中心にポスターを作製した。
- ③ **プロンプト効果:**ポスターとパンフの表紙は同じデザインとし、ポスターで A 県の現状の一部ハイライト部分を紹介し、さらに詳しく知りたい人はパンフ (名刺サイズ) を見るように、ポスターメッセージとパンフとの連続性を持たせ、街角でポスターに触れることで、パンフの内容が繰り返し想起されることを期待した。

#### **パンフのデザイン内容の特徴:**

- ① 携帯性: 名刺サイズ
- ② 地域文化の反映: 地方高校生好みのキャラクターの選定、地域の疫学情報、地方風物をデザイン。
- ③ 無駄のない内容: パンフの内容は昨年度調査結果 (量的調査、質的調査) および今年度調査結果を踏まえ特に誤解の多かったもの、質問の多かったものを中心に構成されており、携帯に便利のように名刺サイズでパンフ全体のページ数は少数に抑え、さらに詳しい情報が欲しい人には相談先を提示した。①エイズはアフリカの話か? ②エイズは血液でうつる病気か? ③日本のエイズ・クラミジア・人工妊娠中絶の動向、④地元 A 県の 10 代のクラミジア感染率、10 代の人工妊娠中絶率、⑤A 県の高校生のコンドーム使用率、⑥膈外射精の問題点、⑦安全日の問題点、⑧ピルの問題点、⑨オーラルセックスと STD、



⑩STD と HIV の相互作用、⑪STD の無症状性、⑫STD を放置した場合の合併症、⑬相手の数とコンドーム使用率、⑭特定の相手なら大丈夫か？、⑮性的ネットワーク、⑯予防するには？、⑰相談窓口とした。(パンフ実物の写真は 1-③高校生モデル授業プロジェクトの項を参照)



**エイズ予防キャンペーン実施時期:**

2003 年 10 月～2003 年 1 月

**ポスター・パンフ貼付・配布場所:** (1) ポスター・パンフ両方を配布する場所としては、①高等学校、大学、短大、②専門学校、予備校、③コンビニ、④カラオケ、⑤ファーストフード店とし、(2) ポスター貼付のみの場所としては、①ビデオショップ、②図書館・公民館などの公的機関、③駅、バスターミナル、④本屋、⑤化粧品店、薬局、⑥美容室、⑦インターネットカフェとした。ポスター・パンフの貼付・配布に際しては、単に郵送するのではなく、すべての依頼先に保健所職員が訪問し、A 県の若者の現状およびポスター・パンフの内容の重要性を説明した上で、貼付・配布を依頼する方法をとった。依頼方法に関しては、依頼方法の標準化をはかる目的で説明用マニュアルを作成し、説明方法の研修を行った。ポスター・パンフ貼付・配布の 1 ヶ月後に、ポスターが本当に貼付されているか、パンフは足りているか(なくなっている場合は補充)を調べるためのモニタリングを実施した。

**結果**

**(1) 保健所別予防啓発活動状況 (表 1)**

A 県には政令都市の 2 保健所を含む 10 保健所が存在するが、今年度の各保健所におけるエイズ予防啓発活動の状況を表 1 に示した。エイズ予防啓発事業としての主活動はパンフ・ポスターの貼付・配布であるが、A 県全体でパンフは 42,486 枚が配布され、ポスターは 3,502 枚が貼付され、配布貼付枚数は昨年度と同程度であった (注：2002 年度配布数、パンフ 37,448 枚、ポスター 3,946 枚)。パンフ・ポスターの配布数は各保健所によって、人口割合別配布数にかなりの差異が観察された。配布・貼付の際には、A 県の現状説明やポスターパンフ内容の重要性の説明は全保健所で実施された。今年度はさらに、本研究班で企画された予防教育が、保健所からの「出前授業」として実施され、10 保健所のうち 7 保健所で実施された。最も介入密度の高かった H3 保健所においては、管内高校の調査参加 9 校の 2/3 をカバーする 6 校で出前授業が実施されていた。

表1. 2003年度各保健所別予防対策状況

	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10
管内人口	42万	24万	11万	27万	16万	5万	4万	4万	3万	15万
パンフ	2800	7300	6703	9120	4960	1176	870	1745	1862	5950
人口割合(1000人対)	6.7	30.4	60.9	33.8	31.0	23.5	21.8	43.6	62.1	39.6
ポスター(大)			72	320	40	86	157	53	12	51
ポスター(小)			244	640	172	100	319	78	106	142
合計	430	480	316	960	212	186	476	131	118	193
人口割合(人口1万対)	10.2	20.0	28.7	35.6	13.3	37.2	119	32.8	39.3	12.9
出前授業実施数		07(中学校)	16(小中)	2	3	0	1	1	0	2
介入密度	L	M	H	H	M	H	H	H	H	M

L=低、M=中、H=高

**(2) パンフレット・ポスターへの暴露状況 (表 2, 表 3)**

表 2, 表 3. に A 県高校 2 年生がパンフレットやポスターにどれくらい暴露されたかを示す。それによると、ポスターを見た人は男子では 64.8%、女子では 78.5%と 7~8 割がポスターに暴露され、昨年度に比べ 3 割以上の増加であった (p<0.001)。一方パンフの入手者は男子 31.1%、女子 41.7%と 3~4 割がパンフに暴露され、昨年度に比べ 1 割弱の増加であった (p<0.001)。性別では、ポスター、パンフどちらも、男子に比べ女子の方が啓発物に対する暴露割合が高率であった (p<0.001)。

表2.ポスターを見た人の割合

	2003年				2002年			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
見た	1418	64.8	2086	78.5	1049	29.5	1584	44.3
見なかった	688	31.4	525	19.8	2260	63.6	1810	50.7
不明	83	3.8	47	1.8	246	6.9	179	5.0
合計	2189	100	2658	100.0	3555	100	3573	100

表3.パンフレットをもらった人の割合

	2003年				2002年			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
はい	680	31.1	1108	41.7	784	22.1	1274	35.7
いいえ	1421	64.9	1485	55.9	2599	73.1	2184	61.1
不明	88	4.0	65	2.4	172	4.8	115	3.2
合計	2189	100	2658	100	3555	100	3573	100

### (3) どこでポスターやパンフを見たか、入手したか？ (表4、表5)

A 県高校2年生が「どこでポスターを見たか」を表4に示し、「どこでパンフを手に入れたか」を表5に示す。ポスターを見た場所として多かったのは、男子では高校内82.5%、次がコンビニ16.5%、薬局16.5%であった。一方、女子でも、最も多かったのは高校内83.2%で、次がカラオケ13.7%、薬局13.7%の順であった。また、パンフレットの入手場所に関しては、男女とも圧倒的に高校の授業の時の入手者が多く(男子81.5%、女子78.2%)、2位が高校内の保健室で男子14.1%、女子14.0%であった。ポスターやパンフに曝露される機会は男女とも高校内が多かった。

表4.どこでポスターを見たか

	2003年			
	男子	%	女子	%
高校内	1170	82.5	1736	83.2
コンビニ	234	16.5	284	13.6
カラオケ	189	13.3	285	13.7
ファーストフード店	48	3.4	51	2.4
薬局	234	16.5	286	13.7
美容院	20	1.4	9	0.4
ビデオショップ	52	3.7	25	1.2
本屋	163	11.5	166	8.0
その他	193	13.6	329	15.8
ポスターを見た総数	1418	100	2086	100

表5.どこでパンフレットをもらったか

	2003年			
	男子	%	女子	%
高校の保健室	96	14.1	155	14.0
高校の授業の時	554	81.5	866	78.2
コンビニ	42	6.2	39	3.5
カラオケ	33	4.9	37	3.3
ファーストフード店	5	0.7	2	0.2
薬局	18	2.6	12	1.1
美容院	4	0.6	0	0.0
ビデオショップ	8	1.2	0	0.0
本屋	10	1.5	4	0.4
友達からもらった	69	10.1	71	6.4
親からもらった	7	1.0	8	0.7
その他	41	6.0	80	7.2
パンフレットもらった総数	680	100	1108	41.7

#### (4) 入手したパンフの波及効果（入手後の経過）（表6、表7、表8）

表6にパンフレットを取得した後、現在も持っている人の割合を示す。男子の35.3%、女子の45.3%と入手者の4～5割もの生徒が捨てずに保持していることが示された（男女差  $p < 0.001$ ）。これは昨年度とほぼ同じ割合であった（表6）。また、自分で読むだけでなく、他の人にも見せた人が、男子33.2%、女子31.2%と男女とも3割以上存在し（表7）、昨年度と同様の結果であった。また、見せた相手は、男女とも友人が最も多かった（男子92.9%、女子79.8%）が、交際相手にも男子13.3%、女子18.2%の人が見せていた。さらに女子で特徴的なことは親11.0%や兄弟姉妹9.5%にもパンフレットを見せている人がいたことであった（「親」については、男女差は  $p = 0.003$ ）（表8）。また、昨年度との比較では、男女とも友人に見せる割合が増加し、家族や交際相手に見せる割合がやや減少する傾向を示した。この結果より、もらったパンフレットは、本人だけでなく2次的な波及効果があることが示唆された。

表6.パンフは今も持っているか？（パンフをもらった人における割合）

	2003年				2002年			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
今も持っている	240	35.3	502	45.3	299	38.1	588	46.2
今は持っていない	432	63.5	600	54.2	472	60.2	671	52.7
不明	8	1.2	6	0.5	13	1.7	15	1.2
合計	680	100	1108	100.0	784	100	1274	100

表7.パンフを他の人に見せたか？（パンフをもらった人における割合）

	2003年				2002年			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
他の人に見せた	226	33.2	346	31.2	271	34.6	433	34
他の人に見せなかった	444	65.3	753	68.0	484	61.7	801	62.9
不明	10	1.5	9	0.8	29	3.7	40	3.1
合計	680	100	1108	100	784	100	1274	100

表8.もらったパンフを誰に見せたか？（パンフをもらって見せた人における割合）

	2003年				2002年			
	男子	%	女子	%	男子	%	女子	%
友人	210	92.9	276	79.8	232	85.6	306	70.7
彼氏. 彼女	30	13.3	63	18.2	42	15.5	124	28.6
親	9	4.0	38	11.0	10	3.7	69	15.9
兄弟姉妹	15	6.6	33	9.5	8	3	57	13.2
その他	4	1.8	6	1.7	4	1.5	7	1.6
合計	226	100	346	100	271	100	433	100